

11月1日(土) 奥びわ湖山門水源の森ガイドツアー



自然保护委員会主催（記：中路）

自然保护委員会主催の自然観察会が雨で流れ、その上、今年度の再計画は難しいことを受け、八尾山の会の定井さんが会員である山門水源の森に行きませんかと提案したところ、自然保护委員会で行くことに決まり、実施しました。

今回はブナの森コースを案内してもらいました。紅葉にはまだ少し早かったですが、ところどころ色づいていてとてもきれいでした。

山門は、もともと薪炭林として活用していたが、薪炭の需要がなくなり放置されていたところ、「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」会員が整備をして公開されています。現在も会員を募集し保全・再生活動に力を注いでおられます。

下記、学んだことの一部を紹介します。

★ブナとアカガシの同居するソーショットが見られる

自然保护委員会として

今後も学びの機会を考えていきます。

寒冷地を好むブナの最南地であり温暖な気候を好むアカガシの最北地であることから寒地性と暖地性の入り混じっている植生が見られる。

★クロモジとシロモジの匂いの違い

クロモジは高級爪楊枝に使われていて、さわやかな芳香がある。シロモジは香りがきつく、葉っぱの先は3つに分かれている。



★センブリの花が満開

可憐な白っぽい花を咲かせるセンブリだが、葉っぱを少しかじるだけでものすごく苦い。センブリ茶はテレビのバラエティー番組の罰ゲームに使われるほど。熱湯に浸しても千回振ってもなお苦いことからセンブリ（千振り）

★イタヤカエデとウリハダカエデの違い

イタヤカエデの葉っぱは5つに分かれているが、ウリハダカエデの葉っぱは浅く3つに分かれている。

★中央分水嶺があり、日本海側と太平洋側に流れる水の境目がある

★湿原コース沿いではササユリの保護ネットが張られている

★天然更新試験地としてネットを張って獣害対策をした森とネットを張っていない森の生育の違いを調査している・・・などなどガイドさんに教えてもらいました。

【参加者の感想】

●奥びわ湖は本当に遠く小旅行でした。帰りも近江今津で電車が止まるハプニングも有りました。ガイドさんが本当に草木等詳しい人で、あらゆる事が学べました。でも唯一覚えていのるが「ミヤマウメマドキ」のみ。

●日本海側気候と太平洋側気候との境目の地形だからアカガシとブナが同居している姿、分水嶺があることなどいろいろな現象の説明を受けながらだと、興味深く歩けてあっという間の時間でした。森を守るためにすぐ結果がわからない根気のいる作業だと思われるのですがそれらを続けられていることがすごいなと思いました。一方、イノシシや鹿、今話題のクマたちはどこに居場所を求めればいいのか…とも考えさせられました。